

令和元年度第1回安城市男女共同参画審議会 質問事項等

no.	資料番号/ 該当ページ	質問事項	回答
1	資料1-1 6ページ 市民協働課 No.6	<p>・参加者がDV研修60名、LGBT研修60名となっているが、2ページ、3ページ、4ページにも同様な取り組みがあり市役所職員には 早期に全員が受講し理解することが必要と思われる。進捗状況はA評価となっているがB評価が妥当ではないか。</p>	<p>No.6は職員向けの取組になりますが、No.2～4については、市民向けの取組になります。No.6の評価については、2018年度の参加者数が、2023年度目標値を上回っているため「A」としました。今後、参加していない職員を対象に研修を行っていき、理解を深めた職員を増やしていきます。また、参加していない職員にも情報提供をし啓発をしていきます。</p>
2	8ページ 学校教育課 No.8	<p>達成目標を「児童生徒が、男女の違いを知るとともに、お互いを理解し合おうと努めていく気持ちを育てる」として、活動計画は道徳、学活、総合、保健などで考える場を設けるとして、活動実績を全小中学校の7割で行ったとなっているが、具体的にはどのような学習を行ったか説明願います。</p> <p>・上記の課題等で「小学校低学年の児童に分かりやすく男女共同参画を教える方法」となっているが、どのような具体的取り組みを考えているか説明願います。</p>	<p>・4年生以上の学級において、学活で男女仲良くすることについて学級会を開いたり、保健の授業で男女の性差について学習を行った。小1～中3までで考えると全体の約7割の学級で行ったことになる。</p> <p>・次年度は、小学3年生にも同じように学習する機会を広げるように考えるが、小学校1、2年生については、保健の授業がないこと、さらに発達段階を考慮して分かりやすく学習するための方法について検討することが必要と考えている。</p> <p>・具体的な取り組みの説明については、学活や道徳の授業を活用して、男女仲良くすることの大切さについて学習できるようにしていく。低学年の児童であるため、絵本や紙芝居など、見て分かる教材の活用も検討していく必要があると考えている。</p>
3	18ページ 生涯学習課 No.15	<p>取組内容は「女性リーダーを育成するため、県などが行う研修会や講座へ市民を派遣する」と示しているが、リーダーは責任者であり、事務局であり、指導者である。</p> <p>リーダーとなるべき女性にどのような育成研修を望むか説明願います。</p> <p>1.何を目的とした団体のリーダーなのか、どのようなリーダーの育成を目的としているのか。</p> <p>2.研修派遣者は、リーダーとしての素質を望まれるが、派遣基準はどのようにしているのか。</p> <p>3.エンパワーメントとしての女性リーダーを育成するのか、生涯学習団体の女性リーダーを育成するのか。</p>	<p>1. 分野に限らず、女性目線で先導的に活躍するリーダーの育成を目指しています。</p> <p>2. 研修会の内容により関係団体に依頼しています。例えば家庭教育に関するものであれば子育て支援団体へ呼びかけ、団体より出席者の推薦をいただきます。</p> <p>3. エンパワーメントとしての女性の能力を發揮してもらうことは生涯学習団体の発展にもつながっています。女性の能力發揮が目的です。</p>
4	25ページ 農務課 No.21	<p>・取組内容は「農業分野における男女共同参画、就農や農業経営の支援」として、家族経営協定の締結農家数を指標としているが、家族協定が女性農業者への支援とは思われない。農業従事者としての男女平等を推進する取り組みが女性農業者への支援と考える。</p> <p>・農業従事者として農業を検証して、現在、農業者としての男女の性差は無いと考える。安城市の農家においては、農業は男女共同参画が最も進んだ部門と思われる。農業における性差は主に家計費管理と労働時間であるが、家族協定に関わらずほとんど男女平等である。</p> <p>・家族協定締結戸数を目標として、進捗状況Bとしているが、農業における男女共同参画の現状はAと評価する。</p>	<p>家族経営協定は、農家における女性の労働に対する社会的評価の向上や性差の解消等を制度の目的に含んでいます。よって、協定を締結することは、多少なりとも女性農業者への支援につながると考えます。また、進捗管理上は客観性のある数値目標を用いるべきであるため、現状では締結農家数としています。</p> <p>しかし、当事者としてのご意見の内容からは、本市の農業における男女平等は、思いのほか進んでいるとお見受けいたします。このため、今後は女性農業者の地位向上等を目指すというよりは、女性農業者の活躍を積極的に支援する視点からの、より実態に即した指標を検討する必要があると感じます。</p>